

県医活動報告

令和6年度女性医師支援・ドクターバンク連携 九州ブロック会議

日 時 令和6年9月28日(土) 14時

場 所 宮崎観光ホテル 東館3階

報告者 大分県医師会男女共同参画委員長 松浦 恵子

1. 開 会

2. 挨 拶

宮崎県医師会長

河野 雅行 先生

日本医師会女性医師支援センター長

角田 徹 先生

日本医師会常任理事

松岡かおり 先生

3. 報告・協議事項

(1) 日本医師会女性医師支援センターからの取組報告

日本医師会常任理事

松岡かおり 先生

(2) 宮崎大学医学部からの取組報告

宮崎大学医学部医療人育成推進センター特別助教

宮崎県地域医療支援機構大学分室キャリアコーディネーター 中村佳菜子 先生

(3) 各県医師会からの取組報告、情報交換及び問題提起

①ドクターバンクについて

②女性医師支援について

③医師の働き方改革（特に女性医師にとっての働き方改革）について

上山宮崎県医師会理事の司会により、担当県の河野宮崎県医師会長、角田日本医師会女性医師支援センター長、松岡日本医師会常任理事の挨拶に続き、報告・協議に入った。

(1) 日本医師会女性医師支援センターからの取組報告

日本医師会常任理事 松岡かおり 先生

女性医師バンクは平成19年度より職業紹介事業として開始。求人・求職、紹介から成立まで利用料は無料で女性男性問わず非会員にも対応し、日本全国、専任コーディネーターによるマッチングが行われる。令和6年8月末時点で医師登録者数は4,250名、就業成立件数は累計3,430件である。

再就業講習会事業として、「医学生、研修医等をサポートするための会」、「女性医師等の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」、「地域における女性医師等支援のための会」、「医師会主催の研修会等への託児サービス併設費用補助事業」をおこなっている。また前年度ブロック会議以降の活動内容として、令和6年5月から女性医師バンクとハローワークとの

連携、女性医師バンクと都道府県医師会ドクターバンクとの連携が強化された。また50歳代医師の将来のキャリアプランに関する調査が行われ、6,562名からの回答をもとに結果が報告された。最後に令和6年度女性医師支援センター事業として、11月下旬から12月にかけて女性医師の勤務環境の現況に関する調査が8年ぶりに行われることが説明された。

(2) 宮崎大学医学部からの取組報告

宮崎大学医学部医療人育成推進センター特別助教

宮崎県地域医療支援機構大学分室キャリアコーディネーター

中村佳菜子 先生

宮崎大学は、大学・宮崎県・県医師会で構成される①地域医療支援機構（・大学分室）、②宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会があり、①ではキャリア形成卒前プラン・キャリア形成プログラムを主に地域枠学生や研修医に行っている。また今年度の地域枠全体ミーティングでは「医師キャリアと働き方～女性医師を中心に～」を開催した。②では中高生から専門医まで医師を目指す応援や研修医の手技実習なども行っている。さらに③大学の清花アテナDEI推進室の医師キャリア支援も行われている。今後、ALL Miyazakiを合言葉に組織間の横の連携強化により医学生・研修医をサポートしていくと紹介された。

(3) 各県医師会からの取組報告、情報交換及び問題提起

- ①ドクターバンクについて：取組と課題が議論された。
- ②女性医師支援について：取組と好事例について議論された。
- ③医師の働き方改革（特に女性医師にとっての働き方改革）について：各県医師会にアンケート調査があり、医師の働き方改革、産休・育休の取得状況等が議論された。
(以下、各県医師会からの発表は、抜粋して記載している。特に②③は全ての県が取組を紹介したわけではなく、資料をもとにした質問等が中心であった。)

【宮崎県医師会】

- ①平成16年より医師協同組合が県医療政策課と協同し「みやざきドクターバンク」を開始。
無料事業のため人員やHP予算が限られており、認知度が低い、日医女性医師バンクとの連携が取れていないなどの課題がある。
- ②医師会及び宮崎県が主体となり、女性医師等保育支援サービスシステム補助事業、女性医師等就労支援事業、婚活支援事業などをおこなっている。
宮崎大学医学部 中村佳菜子 先生への具体的取組についての質問が多くなされた。

【沖縄県医師会】

- ①県の委託事業として医師会ドクターバンクがあるが、予算が限られており、人員の確保や広報が十分にできていない。日医女性医師バンクとの連携が課題。
- ②医師会が主体となり沖縄県からの委託事業として女性医師等就労支援相談窓口事業を実施。
相談窓口業務の管理・運営、女性医師等の勤務環境改善に係るフォーラム及び懇談会等の開催を行っている。
- ③男性育休の取得が比較的長く取られている。

【大分県医師会】

- ①ドクターバンクおおいたは大分県が主体。認知度が低く日医女性医師バンクとの連携はしていない。効果的マッチングシステムの構築が課題。
- ②一つ目は県の委託により医師会と大学が連携している女性医師支援事業で、医療機関訪問や復帰プログラムを含めたキャリアサポートブックの改訂等を行っている。
- ③男性医療人パパの会等で男性医師の育休取得を推進している。

【長崎県医師会】

- ①県からの委託により平成24年にながさき地域医療人材支援センターが設立され平成28年より大学病院に移転。県、医師会、大学病院、地域が協働して様々な支援を行っている中にドクターバンク事業がある。広報しているが成立件数は不明。
- ②「あじさいプロジェクト」を発足し、大学病院に設置されたメディカル・ワークライフバランスセンターに運営が委託されている。近年、地域枠女性医師への支援を強化している。マタニティ白衣をプロデュースしたことが紹介された。
- ③男性医師育休が長い例が多く、科長が育休を取ったことが大きいと報告された。

【熊本県医師会】

- ①熊本県医師会では、医師会報で求人情報を掲載しているが、成立数は不明である。
- ②県、市医師会、大学地域医療支援センターが医師会と協働で取り組んでいる。「女性医師及び子育て医師支援のための一時保育事業」は市医師会に委託、「女性医師及び子育て医師支援事業」「もう一度臨床へ支援事業」は大学病院に委託している。

【福岡県医師会】

- ①医師会が主体となった医師会福岡医師無料職業紹介所があるが、求人数・休職者が少なく、また成立数が把握できていない。
- ②医師会が主体となった男女共同参画部会研修会、女性医師サポートブックの作成、女性医師相談窓口、医学生への講義、また県が主体となった福岡県女性医師キャリア形成支援事業がある。中でも未来の女性医師発掘事業が人気だと報告された。
- ③アンケートでは勤務環境改善に取り組まれており、離職率の低下などメリットもある一方、課題も多く記載されている。

【鹿児島県医師会】

- ①医師協同組合が運営する鹿児島県医師会人材バンク（医療従事者無料職業紹介所）があるが、就職成立は市内に集中しがち。県のドクターバンクとも連携しているが紹介件数は少ない。
- ②県が主体となった鹿児島県女性医師復職研修事業、県医師会が主体となった鹿児島県医師会女性医師支援事業がある。

【佐賀県医師会】

- ①ドクターバンク事業は実施していない。民間の活用が多いようだが、需要の掘り起こしをしていく必要がある。
- ②県医師会が主体となって女性医師相談窓口の設置や男女共同参画委員会の設置とセミナー等の活動をしている。他県の取組を参考に、今後支援の実施を検討したい。

次年度は沖縄県が開催担当県として選出され、閉会した。